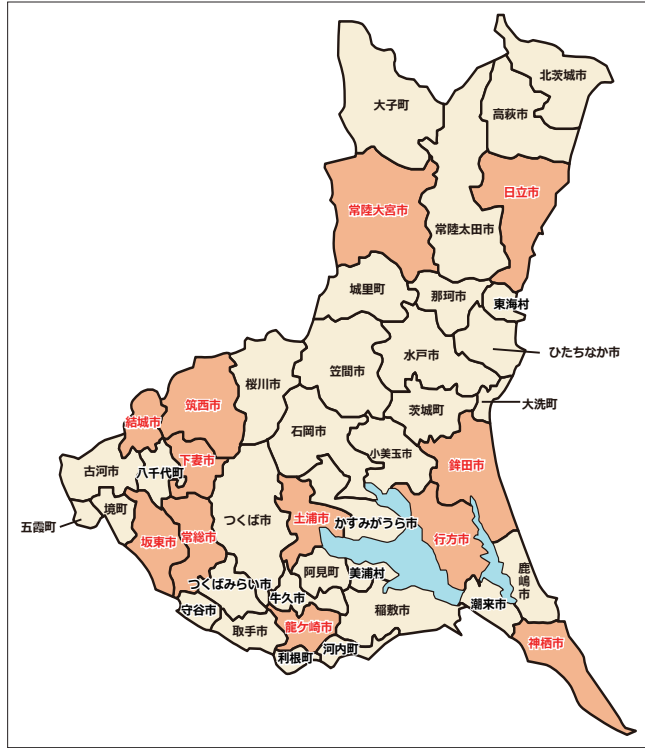


医療費比較勉強会 in茨城

平成28年11月1日、ホテルグリーンコア土浦にて、茨城県医療費分析比較勉強会を開催しました。昨年度データホライゾンで医療費分析サービスを提供した13保険者（日立市・常陸大宮市・筑西市・結城市・下妻市・坂東市・常総市・土浦市・龍ヶ崎市・鉾田市・行方市・神栖市・茨城県後期高齢者医療広域連合）を対象とし、医療費分析の比較結果の説明と情報交換会を行いました。



図表1 参加13保険者

- 対象13保険者
- ・日立市
 - ・常陸大宮市
 - ・筑西市
 - ・結城市
 - ・下妻市
 - ・坂東市
 - ・常総市
 - ・土浦市
 - ・龍ヶ崎市
 - ・鉾田市
 - ・行方市
 - ・神栖市
 - ・茨城県後期高齢者医療広域連合

データヘルス計画第二期策定を見据えて
情報交換・好事例の横展開を図る
 開会では、本会開催にご尽力いただいた神栖市国保年金課の日高課長より、

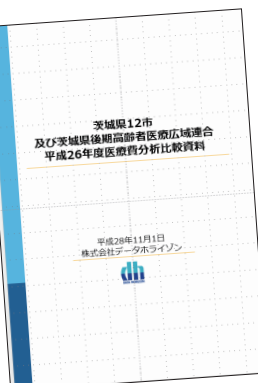
「この会を開いていたことに感謝しています。データホライゾンは、精度の高い分析をしてくれ大変助かっています。当初データホライゾンで分析を行う自治体が4保険者以上あればこの会を開催する予定でしたが、13保険者もの比較ができることとなり、嬉しく思います。本会の主旨は、詳細な医療費分析結果を比較することにより、各保険者の問題点や課題を浮き彫りにし、今後の保健事業の一助とすることです。皆様にとって有意義な時間になると考

分析項目	内容
● 医療費基礎統計	— 医療費やレセプト件数等、基礎的な数値を集計。
● 高額レセプトの要因となる疾病分析	— 高額（5万点以上等）レセプトの疾病を特定。医療費高額化につながる疾病を分析し、予防できる疾病を特定。
● 大分類・中分類・傷病名毎の疾病統計	— 分類毎の医療費、患者数等を集計。各分類毎の医療費の把握に使用。
● 透析患者の実態	— 透析患者の人数や方法、透析に至った起因を分析し、予防可能な疾病を分析。
● 糖尿病性腎症重症化予防対象者分析	— 傷病管理システムを使用して患者毎に病期を階層化し、ハイリスク患者を特定。保健事業対象者を抽出。
● 健康管理状況分析	— レセプトと健診データを組み合わせた分析を行い、被保険者の健康管理状態をグループ分けし、受診勧奨の候補者を抽出。
● ジェネリック医薬品普及率	— ジェネリック医薬品普及率（数量・金額）やデータホライゾン方式でジェネリック通知を行った場合の切替ポテンシャル等を分析。



株式会社 データホライゾン

お問い合わせ先
 株式会社 データホライゾン
 広島本社
 TEL : 082-279-5553
 担当：米田
 東京本社
 TEL : 03-3868-2285
 担当：横関
 札幌オフィス
 TEL : 011-200-9312
 担当：柴山



株式会社 データホライゾン



差出人（差出發行代行）
 返還先：〒734-0013 広島市南区出島 1-19-20
 佐川急便（株）中国・四国支社内 メールセンター⑥ 2-1

このお荷物はご依頼人様からお預かりした荷物を弊社が差出人となって発行代行しています。

広島から国保の元気を応援します

裏面では、

「医療費比較勉強会の開催報告 in 茨城」

についてお届けします。

お問い合わせ先

株式会社 データホライゾン

広島本社

〒733-0834 広島県広島市西区草津新町 1-21-35 広島ミクスビル
 TEL : 082-279-5553 FAX : 082-279-5620 担当：米田

東京本社

〒112-0004 東京都文京区後楽 1丁目5番3号 後楽国際ビルディング 3階
 TEL : 03-3868-2285 FAX : 03-3868-2385 担当：横関
 ※2016年2月1日に上記の記載住所に移転しました。

札幌オフィス

〒060-0052 北海道札幌市中央区南2条東2丁目16番地 堀尾ビル2階
 TEL : 011-200-9312 FAX : 011-200-9317 担当：柴山
 ※2016年1月12日に新しく開設しました。

データヘルスは、
データホライゾンにお任せください

えております。」とのご挨拶をいただきました。次に、弊社東日本営業部長 横関より、「平成26年に常総市様にデータヘルスを提供したことを契機に、茨城県では昨年度12自治体と広域連合様にまでサービスの提供が広がり、今回の勉強会開催につなげることができ、大変ありがたいと思います。昨年度まで

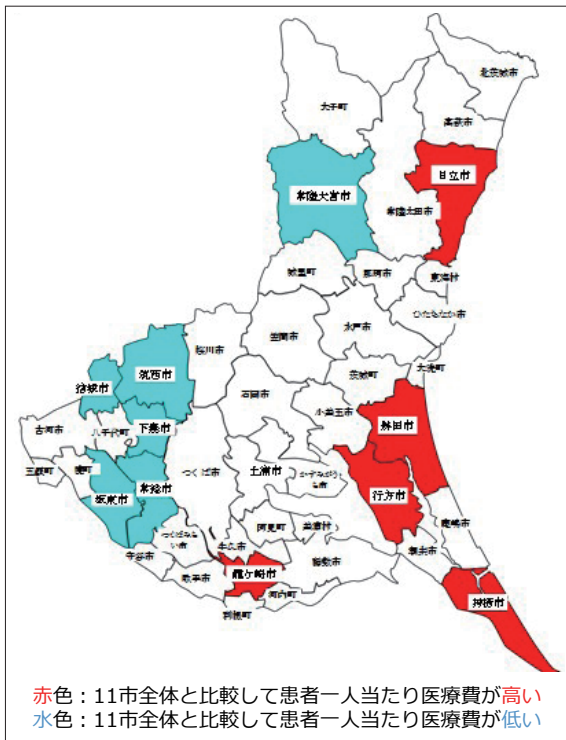
に、医療費分析をもとにデータヘルス計画を作成した皆様におかれましては、来年度中には第二期計画の策定が控えています。第二期計画では、効果の見える化が必須となっており、弊社ではこれまでの保健事業の実績と精度の高い

医療費分析により、第一期計画の評価と効果測定が確実に行えます。本会をきつかけに好事例の情報交換を行うことで被保険者の健康保持増進に役立ち、医療費適正化につながるような勉強会にしたいと思えます。今回を皮切りに来年以降2回、3回と続けられるよう、また皆さまのお役に立てるよう

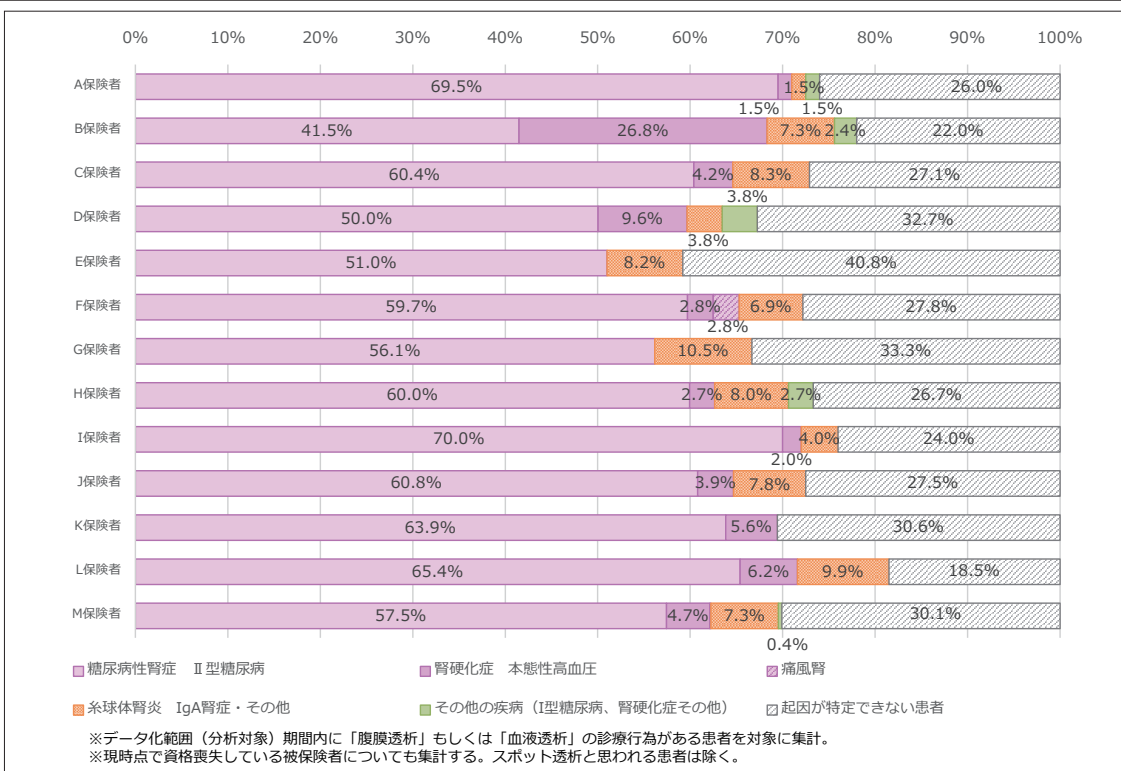
人工透析の起因No.1はII型糖尿病

医療費や患者数では、生活習慣病起因の疾病・新生物・精神疾患が上位に

続いて、弊社茨城県担当の小川より、比較分析結果の報告がされました。13保険者による疾病ごとの医療費や特定健診の受診率、シエネリック医薬品普及率など、自治体ごとに比較したグラフや地図などを使い説明を行いました。総じて、いずれの保険者でも、生活習慣が起因とみられる疾病と新生物、精神疾患が医療費・患者数の上位にあがっており、生活習慣病関連では、順位に違いはあるものの、高血圧性疾患・糖尿病・脂質異常症がトップ3を占めていました。また、5万点以上の高額レセプトの要因となる疾病の上位に腎不全が多くの自治体であがっていました。次に人工透析患者の実態分析では、透析の起因は、全ての保険者で



図表2 平均医療費の比較結果



図表3 人工透析の起因構成

①糖尿病性腎症 II型糖尿病	割合
11市全体	60.6%
A保険者	69.5%
B保険者	41.5%
C保険者	60.4%
D保険者	50.0%
E保険者	51.0%
F保険者	59.7%
G保険者	56.1%
H保険者	60.0%
I保険者	70.0%
J保険者	60.8%
K保険者	63.9%
L保険者	65.4%
M保険者	57.5%



※データ化範囲 (分析対象) 期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。
※現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。スポット透析と思われる患者は除く。

図表4 II型糖尿病が起因である糖尿病性腎症の割合

意見交換会 糖尿病性腎症重症化予防が焦点 保険者を超えて、具体的な内容や意識の共有化

報告後、質疑応答・情報交換会が行われました。課題にもあったとおり、多くの保険者で糖尿病性腎症重症化予防の必要性を感じておられ、事業化に向け、さまざまな意見や質問が交わされました。中でも、今年度、弊社とともに事業をスタートし、重症化予防指導の実施を開始する下妻市と行方市に対して、なぜ指導を始めることにしたのか、指導の進め方や、医師との連携の取り方、医師会への説明など、具体的な質問が寄せられました。

新たな指導法の確立へ

行方市では、ICTによる糖尿病性腎症重症化予防の指導を11月末より開始するため、他保険者よりICTと訪問型指導の違いやICTのメリット・デメリットについて質問が来ました。行方市がICTによる指導の実施となったのは、行方市近隣で指導員が確保できないことや、交通の便の問題があったことなどの背景があります。指導は、保健センターの個室を使い、東京の指導員とタブレット端末を使用し、面談を行います。その際、行方市の保健師も同席し、身体確認は現地の保健師

がフォローします。ICTでの指導は、場所を選ばず指導を行える点や、移動時間が必要ないので面談日時の制約もないことなどのメリットがあります。弊社としてもICTによる指導は全国初のため、モデル事業としてご協力いただくことになりました。また、下妻市では、指導対象者を市内の医療機関受診者のみとし、医療機関毎に対象者を抽出し、かかりつけ医の同意を取ったのち、本人の同意を取り、指導を開始したところ。

国保の段階で早期予防を

続いて、茨城県後期高齢者医療広域連合から、弊社の分析結果を踏まえ、後期高齢者においても重症化予防の必要性が訴えられました。自治体に対して国保から後期に入ってくる段階で既に重症化している方が多いので、国保と後期の異動時期にあたる74歳以下の方に対しどのような取組みがされているのかとの質問がありました。多くの自治体で、74歳以下の方々に対して積極的なアプローチがなされていないとのことで、国保の段階で可能な限り予防してほしいとの貴重なご意見をいただきました。

勉強会は好評

最後に小川より、「今年度も、ありがたいことに医療費分析を行う保険者様が3自治体増えました。来年、再来年と勉強会を続けさせていただければと思います。来年はもっと早い時期に行いたいと考えております。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。と挨拶し、閉会となりました。閉会後、多くの保険者から、「比較することで県の中の当市の立ち位置がわかり、何を優先にすべきかなど明確になった」「一周りの自治体の取組みを生で聞くことができ、非常に有意義な時間になった」「ぜひ来年も開催してほしい」といった感想をいただきました。

我々も精一杯努めてまいります。今後ともよろしくお願ひ致します。と挨拶がありました。